



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443



原発再稼働ストップ

「松代病院はいのちの砦、私たちはあきらめない！」十日町市松代で医療を考える講演会

松代病院の診療所化を考える



7/26講演する竹島良子さん(イラスト橋爪法一さん)

7月26日、「県立松代病院を守る会」(準備会)主催の講演会に参加しました。会場に着いたらびつくり、用意したイスが足りずに次々追加していたからです。最終的には150人近い人たちが参加したようです。それだけ関心が高いんですね。冒頭、この講演会を準備してきた世話人の一人、村山繁一さんが「我々の命の綱である県立松代病院を何としても守りたい」と挨拶。講演は元長岡赤十字病院看護師長・元県会議員の竹島良子さんです。

竹島さんは、「松代病院の診療所化とは？住民の視点で考えましょう」というタイトルで話されました。県の資料を使ってわかりやすいスライドで話されました。

①住民の「医療へのアクセス」は基本的な人権である。いつでも、どこでも、誰でも、安全で質の高い医療にアクセスする権利がある。県が2022年8月に行った高齢者基礎調査でも65%の人たちが、「具合が悪くなつた時に駆け付けてくれる医療・看護体制が整っている」とを自宅や地域で住み続けるために必要だとしている。

②県は採算優先で県立病院を切り捨てるな。病院局は、「高齢者はいろんな病気を抱えているので、総合的・包括的な医療的ケアが必要、小規模病院では難しいから十日町病院に集約したい」「9月頃に2回目の住民説明会をやつて、12月県議会で診療所にする条例「改正」を提案し、来年4月から

無床診療所へ移行したい」となどと説明している。しかし、県の説明資料でも、入院需要は2030年までは急性期・回復期は増え続けるとしている。病床は減らさなくていいのだ。

新型コロナウイルス感染症の拡大時に地元医師会は「妻有地域は医師も診療所も病院のベッド数も日本一少ない地

域。感染が流行ればあつという間に地域医療は崩壊してしまう。緊急事態に対応できなくなる」と述べました

③当初方針の「県立病院経営強化プラン」に基づく医療体制の構築を求める。

自治体と一緒に、国の低医療費政策の転換をはかる運動にしよう。

(橋爪法一さんFBから引用)

遠藤れい子の笑顔でファイト

8/16講演する後藤政志さん

だまされてはいけない「原発の安全」

8月16日、市内で「原発再稼働を考える会・長岡」の学習会が開かれ、原発設計技術者の後藤政志さんが講演された。

安全とは？事故が発生した時、原発を止めることが出来なければ安全とは言えない。電力会社も国の役人も

技術者も誰も「原発は安全だ」とは言っていないんですよと鋭い指摘。

そうだ！ 原発再稼働をストップさせよう！

戦争と平和展を観賞

90歳を超えられても現役の医師で画家の丸岡稔先生が自身が経験された戦争の体験のお話をされ、作詞された「若者よ」のCDを聴きました。

8/16体験をお話される丸岡稔さん